

「若いウグイスは何から鳴き声を学ぶか？」

「若いウグイスは、声の良い成鳥から鳴き方を学ぶといいます。本当に乱れていたのは、大人だったのかもしれませんが」

脚本家の内館牧子氏が「維新150年」という特集記事（2018年3月27日「朝日新聞」）に寄せた一節で、社会全体が浮ついて、真面目さや厳しさが煙たがれたバブル時代を振りかえり述べた言葉である。「若いウグイスが良い声で鳴くためには、大人が良い声で鳴き続けるといけない」とも述べている。この言葉を思い出したのは、知床半島沖の観光船沈没事故やいまだに続くロシアのウクライナ侵攻のニュースを目にしているからである。

2011年まで、日本PTA全国協議会は「テレビ番組に関する意識調査」を行い、「子どもに見せたくない番組」なるものを選んでいった。私が子どもの頃なら、ドリフターズの「8時だヨ！全員集合」が選ばれていたと記憶しているが、長崎は当時、民放は2局しかなく、ドリフのこの人気番組は幸か不幸か放送されていなかった。ただし、高校の頃には12時放送の「笑っていいとも」が17時から放送されていたのだから、高校生でも頑張れば（！？）視聴できたし、もっと子どもの頃ならサザエさんは何と！週に2回も放送されていたのだから、当時の長崎のテレビ放送も侮れない。ワースト番組なるものを選ぶ可否はともかく、今、「子どもに見せたくない番組」を選ぶなら、世界の残酷さや社会の欺瞞を流し続けるニュース番組ではないかと言いたくなるのは私だけだろうか。つくづく子どもには見せたくない事件や事故ばかり。はじめの一文を思い出したのは、こうした思いからである。

さて、私事ですが、新学期早々自家用車が故障。しばらく移動は公共の交通機関を頼ることになった。昨今の「本離れ」の話題の中で、JRは大人も学生もスマホばかりで本を読んでいる人がホントウにいなくなったとさまざまな場で見聞きしていたが、スマホで本を読んでいる人もいるだろうから一概には言えないとも思っていた。それでもこの機会にと列車内でまわりをキョロキョロ。結論を言うと（あくまで感覚的ですが）、学生を含め、若い人の方が紙の本を開いているように見えました。私くらいのオジさんはというと、スマホをいじっているか、朝一番なのに寝ているのか考えごとをしているのか、しかめっ面で目をつぶっている人が多かったようです。先ほどは偉そうに「声の良い成鳥」なんて言いましたが、大人の方が若い人や子どもたちから学ぶ場面も少なくないですね。

ところで、周りを観察し終えた私が何をしていたかということ、買ったはずのキップがなぜか見当たらず、降りる駅に着くまでの間ずっと、ズボンや上着のポケットからバッグの隅々まで何度もひっくりかえし、慌てふためいていました。つくづく生徒たちには見せられない有様で、反省ひとしおです。わが子が幼い頃、ハンカチはいつも同じところに仕舞うように言い聞かせていたのをつい思い出しました。今回の教訓は「乗り慣れないJRだからこそ、キップを仕舞う場所は決めておけ」でした。

令和4年5月16日

大村城南高等学校長 中小路尚也